

週 報

2018. 8.5

お前は顔に汗を流してパンを得る／土に返るときまで。
お前がそこから取られた土に。塵にすぎないお前は塵に返る。」(創世記3:19)



北九州市八幡東区東田付近

AM10:30 主日礼拝

メッセージ：「失樂園」

創世記3章1～19節

メッセージ：齋藤 さいとう 篤 あつし 牧師 (Video)

にほんきりすときょうだんかさわきょうかい
(日本基督教団深沢教会)



まねきのことば

招 詞 (イザヤ40章31節)

「主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。
走ってもたゆまず、歩いても疲れない」

深沢教会イエス・キリスト企救エクレシア (バス停・徳寿園入口から北へ20m)

〒802-0974 北九州市小倉南区徳力4-17-15

TEL/FAX : 093 (964) 2590

E-mail : kikuecclesia@gmail.com

URL : <http://kiku-ecclesia.2is1.jp>



7月は、サッカーのワールドカップがロシアで行われ、日本の活躍が、我が国のみならず世界中を沸かせました。試合が深夜や早朝に行われましたので、睡眠不足になられた方も多かったのではないのでしょうか。すべての試合が力と力のぶつかり合いで見ごたえのあるものでしたが、それに匹敵するほどわたしたちを感動させたのが、試合のあとにお互いの健闘をたたえ合う光景でした。スポーツマンシップの真髄は、このような「ノーサイドの精神」にあります。敵味方になって激しくぶつかり合っても、終了の笛がなったら敵も味方もなくなり、お互いをリスペクトし合うのです。

この精神は、イエス・キリストの精神でもあります。パウロはこのことを本日の聖書の箇所、次のように記しています。「キリストは、わたしたちの平和であって、二つのものを一つにし、敵意という隔ての中垣を取り除かれた」(2:14) と。旧約聖書の創世記から始まる人間の歴史は、まさにこの敵意の歴史でもありました。人間の始祖であるアダムとエバは、その罪の責任を他者(エバは蛇に、アダムはエバに)に負わせて責任転嫁して自己正当化し、神に背きました。次に二人の初めての子(カイン)は弟のアベルに嫉妬して敵意を抱き、アベルを殺害してしまいました。父なる神は、神と人、また人間同士の関係の修復のために、アブラハムを父祖とするイスラエル民族を選ばれ、その回復を計られました。しかし彼らはそのような神の意図からはずれ、選民意識だけが強くなり、自ら優越意識・特権意識をもつようになり、他者(異邦人)を裁く結果になってしまいました。このような人間の罪の歴史(敵意の歴史)に終止符を打つために、父なる神は、そのひとり子であるイエス・キリストをこの地に送られたのです。

パウロは前述の聖書の箇所に続けて、そのことを次のように記しています。「イエス・キリストは、ご自分の肉によって、数々の規定から成っている戒めの律法を廃棄したのである。それは彼にあって、二つのものをひとりの新しい人に造りかえて平和をきたらせ、十字架によって、二つのものを一つからだとし神に和解させ、敵意を十字架につけて滅ぼしてしまったのである」(2:14~16) と。二つのものを一つにするのは(ノーサイドにするのは)十字架によってのみ可能であり、本当の平和はイエス・キリストの十字架によってもたらされるということを告げたのです。そして、父なる神は、その務めをキリストにあってまったく新しい人に造りかえられたキリスト者にお委ねになりました。

礼拝は単なる儀式ではありません。

わたしたちはイエス様によって新しく力を得て、この場から平和の使者としてそれぞれの所に遣わされていくのです。

Memo: :





連載

秋津 島夫

(続き) 『聖書』を読んで、まず疑問に思ったのは、「神様は、なぜ最初に『光あれ!』と言ってこの世を創ったのだろうか?」ということであった。神様によっては世界の創り方が違う。例えばインドのある宗教では、神様が自宅のお池にぼっかりと浮かんで(!) 昼寝をしているが、その時神様が見ている“夢”が我々のこの世界だ。もし神様が「あーあ、良く寝た!」と言って目覚めれば、たちまちこの世界は消え失せてしまう。

しかし『聖書』の神は夢など見ていない。きわめて意志的に「よし、宇宙を創ろう」としている。なぜなのか? 面白話として、以下に勝手な“妄説”を述べてみよう。

“神の空間”に、神様がたった一人である状態を想像してみてください。一人でいると退屈だ。何かゲームでもやろうかな、と神様は思った。神様だからゲームを創るなどということはお茶の子さいさいだ。よし、自分を崇め奉る(あかめたてまつる)ゲームを創ろう。でない面白くない。自分を非難中傷するようなものは、自尊心(?!)から考えて駄目だ。でも、単純に「神様! 神様!」と崇められるだけでは阿保らしい。初めは私に逆らい、私から逃げるが、長い紆余曲折を経て、最後には私に帰って来ざるを得ない、というのでなければいけない。

構想は膨らむ。ストーリー展開の骨格は“善と悪の戦い”にしよう。キャラクターもそれなりに“悪魔”なども用意して……さあ創ろう!

そこには何も無い。まず舞台となる物質世界を創らねばならない。神は天と地を創造する。そこはまだ暗闇である。神は「光あれ!」と言うことによって光をもたらす。このように、神は御自分の“言(ことば)”でもって全てを創造する。

こうして宇宙という背景を創り、最終的に人間を作り、人間に、彼が動くためのプログラムを入力する。このプログラムこそが私達の持っている「意識、心、精神」というわけである。こうして神のゲームのキャラクターは完成した。

イザヤ48:11 「わたし自身のために、わたし自身のために、わたしは事を起こす。」

詩編102:19 「主を賛美するために民は創造された。」

イザヤ43:7 「彼らは皆、わたしの名によって呼ばれる者。わたしの栄光のために創造し形づくり、完成した者。」

:21 「わたしはこの民をわたしのために造った。彼らはわたしの栄誉を語らねばならない。」

この『聖書』の引用は、強引過ぎるかな? まあ、笑い話だから、お許しあれ。

さて、私たち誰もが持っている「意識(心、精神)」の**大本**が神様なら、その「意識(心、精神)」がやって来た道筋を逆にたどれば、**大本**である神様にたどり着けるのではないか? こう考えた私は実験に取り掛かった。いやはや、こういうことを書くのはとても気が引ける。全然ピント外れなことをやってみよう、というのだから。これが理系人間の悪癖である。

(続く)



10:30～ 主日礼拝

前奏		
招詞	イザヤ書40章31節	司会者
讚美	「アドナイ・エレ（主の山に備えあり）」	〈起立〉一同
//	「今こそキリストの愛に應えて」	//
祈禱		〈着席〉司会者
使徒信条		〈一同〉司会者
特別賛美		林田耕治
聖書	創世記3章1～19節	司会者
讚美	「主の教えを喜びとし」	一同
メッセージ	「失樂園」	齋藤篤牧師
讚美	新聖歌345「沖へいでよ」	一同
主の祈り		〈一同〉司会者
献金	新聖歌343「罪に満てる世界」	立石才子
報告		司会者
頌栄	新聖歌63「父、御子、御霊の」	一同
祝禱		
後奏		
当番：立石才子	司会：衛藤照子	奏楽：安武・林田・立石
特別賛美：林田耕治	メッセージ：齋藤篤牧師（Video）	献金：立石才子
※お体の具合の悪い方は座ったままで結構です。		



次週（8月12日）主日礼拝奉仕者

当番：衛藤照子 司会：林田耕治 奏楽：林田・立石
メッセージ：勝谷紘幸 献金：衛藤照子

報告

礼拝後、聖餐式があります。

祈り

※共に祈りあいましょう。祈りは油であり、灯の源です。

- 1、熊本地震で被害を受けた方、復旧に働いておられる方のために！
- 2、東日本大震災で亡くなられた方、原発の被害にあわれた方、避難されている方、奉仕されている方のためにお祈りいたします。
- 3、日本と諸外国との色々な問題が、主によって速やかに、また私たちの思う所、願う所を超えて益となる解決がなされますように！



先週の礼拝人数

男性 3名

女性 3名

計 6名